

安芸国の長門の島にして磯辺に舟泊まりし
て作る歌五首

三六一七番

石走る 滝もとどろに 鳴く蝉の 声をし聞けば
都し思ほゆ

三六一八番

山川の 清き川瀬に 遊べども 奈良の都は 忘
れかねつも

三六一九番

磯の間ゆ 激つ山川 絶えずあらば またも相見
む 秋かたまけて

三六二〇番

恋繁み 慰めかねて ひぐらしの 鳴く島陰に
廬りするかも

三六二一番

我が命を 長門の島の 小松原 幾代を経てか
神さび渡る